



おぐら  
尾倉

<校訓>  
自主  
創造  
協力



令和3年11月29日(月)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
  - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
  - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

# 12月行事予定をお知らせします！

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため急遽変更になる場合があります。ご了承ください。

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	水	環境首都検定	18	土	バスケット新人区内大会
3	金	北九州ゆめみらいワーク(全学年)	20	月	保護者会(3日目) 文化活動発表会展示見学(保護者)
6	月	代議・専門委員会			
8	水	北九州学力・学習状況調査(1・2年) クラスマッチ(3年)	21	火	保護者会(4日目) 文化活動発表会展示見学(保護者)
11	土	バスケット新人区内大会	22	水	2学期給食終了日・大掃除
16	木	保護者会(1日目) 文化活動発表会展示見学(保護者)	23	木	終業式
17	金	保護者会(2日目) 文化活動発表会展示見学(保護者)	16日～21日は保護者の展示見学期間です(学校開放週間を兼ねています)。保護会の前後にぜひご覧ください。		

## 入賞おめでとう！～県交通安全協会より～

### ～第73回福岡県小・中学生交通安全作文コンクール～

福岡県交通安全協会主催の「第73回小・中学生交通安全作文コンクール」で、本校3年生の吉田春奈さんが最優秀賞、中村こゆきさんが優秀賞を受賞しました。おめでとう！

2人の作文は、12月11日(土)から実施される「年末の交通安全県民運動」の期間中、KBCラジオで受賞者の朗読(CDに録音)により放送されます。ラジオ放送は、12月下旬に予定されます(決定次第お知らせします)。また、作文は現在交通安全協会のHPにも掲載されています。

#### 「もしかしたら」を考えて 北九州市立尾倉中学校 3年 吉田 春奈

私は先日、道路に引かれている白線の外側に、小さな子どもが走って出て、車とぶつかりそうになっているところを見た。幸い事故には至らなかったが、もし車の位置が少しずれていたら、もし子

どもが止まらなかったら、もしかしたらを考えると、とても恐ろしくなった。

私の家の近くには公園があり、公園の近くにはよく車が走っている。公園で遊んでいる子どもが走って公園から出て、車とぶつかりそうになることも少なくはない。例えば、ボールが公園の外に出て、子どもが周囲を見ずに勢いよく飛び出し、車が急に止まるなど、私はその光景を見るたびに恐ろしくなる。公園で遊んでいる子ども達は、車が止まってくれるからと思っているのかもしれないが、車に乗っている人達はどうか。車に乗っている人達もまた、子どもは止まってくれるからと思っているのではないだろうか。どちらかがいくら気をつけていても、互いに気をつけなければ、危険は避けられないだろう。

私は事故が起こる可能性を無くすためには、車に乗っている人達、遊んでいる子ども達、歩いている人達それぞれが、互いに「もしかしたら」を考える必要があると思う。この「もしかしたら」は一方通行のもしかしたらでは意味がない。互いに相手のことを思いやり、自分を大切にするための「もしかしたら」を真剣に考えなければならない。「もしかしたら」を考えることで、自分や自分の大切な家族、友人を守ることに繋がるのだ。

私は今後、色々な場合の「もしかしたら」を考え、私自身や私の大切な人達を守っていきたいと思う。さらに、この「もしかしたら」の考え方が多くの人に伝われば、いつまでもあなたにとっての大切な人の笑顔が守られるのではないだろうか。



#### 私の願い 北九州市立尾倉中学校 3年 中村 こゆき

私には、最近自転車の練習を始めた四歳の妹がいる。私と十歳も離れており、週末には二人で一緒に公園に行くことが多い。妹の自転車には、まだ補助輪が付いているが、それでも安定していないため、目が離せない。私にかかっている責任はとても重い。だから、横断歩道では、「自転車から降りて手で押すんだよ。」と毎回言う。

以前、学校へ登校していた時に、横断歩道を堂々と自転車で渡る男性とすれちがったことがある。通勤、通学者がとても多く、混雑している中でも、ペダルをこぐ足は止まらない。結果、一人のために、何十人も人がよけることになり、私は朝からすごく不快な気持ちになった。同じような気持ちになった人は、他にもいたはずだ。しかし、文句を言う人や、顔をしかめている人はおらず、日本人の優しさを痛感した。それと同時に、「日本人が優しいから、油断する人、そして交通事故も多くなるのかな。」と思った。

この経験から、私は自転車横断帯をもっと増やしていくべきだと考える。そうすれば、自転車と歩行者の交通事故、そして歩行者の言葉にできない不満もなくなるだろう。自転車は、免許が必要なく、とても移動に便利である。しかし、使い方を誤れば、人の命を一瞬で奪ってしまうほどの凶器になってしまう。私の妹が、自転車との交通事故で亡くなってしまったらまず、「後悔」というもどかしい気持ちに、私の心は押し潰されてしまうだろう。そして次に、その自転車の運転者を必ず恨む。このような思いをする人が、一人でも少なくなると、日本の治安はさらによくなると思う。自転車横断帯が増えれば、人々の笑顔も必ず増える。安心して自転車に乗れる環境で、妹と一緒にドライブをする日がとても待ち遠しい。